

学科名	生物環境化学科						
科目名	生物有機化学						
科目区分	専門科目	科目コード	310047	単位数	2単位	開講時期	3年次前期
必修・選択の別	選択必修科目(バイオサイエンスコース) 選択科目(食品生物資源コース) 選択科目(エネルギー・環境コース)						
担当者	藤井政幸						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生命現象を化学式で表現する」ことを全体的な目標とする。</li> <li>・生命物質の構造と機能について有機化学的に理解する。</li> <li>・物質代謝とそれに伴う生命現象について有機化学的に理解する。</li> <li>・生化学的エネルギーの発生と生命現象について有機化学的に理解する。</li> <li>・神経伝達, シグナル伝達と生命現象について有機化学的に理解する。</li> </ul>						
日程と内容	第1回: 導入講義、授業の進め方と概要の説明、成績評価法、生物有機化学とは何か。生命分子の基礎 第2回: 地球進化と化学進化 第3回: アミノ酸 第4回: タンパク質と高次構造 第5回: タンパク質の機能: 酵素、プロテアーゼの作用機構と遷移状態 第6回: タンパク質の機能: 抗体、免疫、抗体触媒 第7回: タンパク質の機能: ヘモグロビン 第8回: ビタミン、補酵素、酸化還元酵素反応 第9回: 生化学エネルギー: エネルギーと生命、自由エネルギーと生化学反応 第10回: 生化学エネルギー: 代謝とエネルギー生産 第11回: 生化学エネルギー: クエン酸回路 第12回: 生化学エネルギー: 電子伝達経とATP生産 第13回: 化学メッセンジャー1 メッセンジャー分子、ホルモン 第14回: 化学メッセンジャー2 神経伝達物質、神経伝達の機構 第15回: 化学メッセンジャーと精神作用: ホルモン、体内時計、うつ病 定期試験						
成績評価基準	定期試験	50%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題						
	演習	20%	計	100%			
授業到達目標の達成度	受講者69名、試験受験者63名、合格者37名、合格率59%で、合格率が例年に比べて著しく低かった。この学年の学習意欲の低さを反映したものを考えている。一方で、講義を真剣に受けている学生にはよく理解できるように説明できたと考えている。事実、アンケート自由記述欄には説明が分かりやすかった、講義内容に興味を持てた、不得意な分野であったが興味を持てたなどの意見が見受けられた。						
反省点	食品衛生管理士資格取得のための必修科目となっている、3年生のほとんどが受講することとなった。講義をほぼ全回欠席した学生6名を除外すると講義に出席しながら不合格になった学生が26名おり、そのほとんどはもともと学習意欲の低い学生とはいえ講義への興味を引くことができなかつた点や内容が理解できなかつた点は今後の工夫により、こういった不合格者を減らす工夫をしたい。						
来年度の計画	本年度は2年生までの基礎学力の不十分な学生や学習意欲の低い学生への対策として、前回講義内容の理解をチェックするための小テストで点数が低かった学生に対してその翌週に再試験を行うことにより理解を補うよう促した。それでも不十分だったので、理解が不十分な学生に対してはさらに復習課題を課するなどしてさらに理解度を高める工夫をしながら、かつ、優秀な学生の満足度を高めるために従来の講義水準の維持に努めたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価8.5と評価が高かった。真剣に講義を聞いてくれた学生からは「説明が分かりやすかった、興味を持てた、楽しかった。」等の感想があったのでこういった感想がより多くなるように努めたい。一方で小テストが多すぎたとの悲鳴ともとれる感想もあり、小テストなどを少なくして自主性に任せた講義を進めることが好ましいのも確かではあるが、何とか、脱落者を少なくするための方策として現状ではやむなしと考えている。						
履修登録者数	68名	定期試験 受験者数	57名	合格者数	49名	合格率	86%